

## 【第 14 章 章末問題解答】

1. 企業が IFRS により財務諸表を作成することの意味について説明しなさい。

企業活動のグローバル化が進むと当然に、企業は、企業グループの業績管理のために、また経営戦略をたてるために、国際的視点から判断し、意思決定をしなければならない。しかし、この状況下において、それぞれの国や地域で、企業会計の基準やルールに違いがあると、様々な問題が生じることになる。それを避けるため、企業は IFRS により財務諸表を作成し、国際的視点の判断、意思決定に利用するのである。

2. 会計基準の国際的統一についての 2 つの方法について、それぞれのメリットとデメリットを説明しなさい。

会計基準の国際的統一の方法には、アドプションとコンバージェンスがある。

アドプションとは、国際会計基準そのものを採用する方法である。メリットは、グローバルな基準を採用することで、企業の資金調達が全世界で可能となることであり、デメリットとしては、国際会計基準設定に自国メンバーが入らなければ、他国主導で会計基準が作成され、自国への配慮が不十分な基準であっても受け入れざるを得ない状況となることが挙げられる。

一方、コンバージェンスとは、自国の会計基準を改定して国際会計基準に近づける方法である。メリットは、自国の事情を考慮した会計基準の設定が可能となることであり、デメリットとしては、常に自国の会計基準の見直し、改訂が必要となり、時間やコストが非常にかかるということ、また日本の財務諸表がグローバル市場から信頼を得られない可能性があることが挙げられる。

3. 原則主義と細則主義について、IFRS と日本基準がどちらの主義であることを明確にし、それぞれのメリットとデメリットを説明しなさい。

一般的に、IFRS は「原則主義」であり、考え方の基となる原則・原理のみを示し、具体的な数値基準や判断基準を定めないという方針を採用している。これは、IFRS は世界各国で適用されることを前提として作られた会計基準であるため、各国の法制度が異なっても、支障なく会計基準を機能させるために、原則的なルールのみ設定しているのである。原則主義では、メリットとして自由が大きいですが、逆に、原則に則っていることを自ら説明できなければならないというデメリットもある。

一方、現行の日米の会計基準は「細則主義」を採用しており、原則主義とは対照的に、詳細な判断基準や、判断の目安としての数値基準が記述されている。細則主義では、メリットとして、ルールに従えばいいので検討事項が少なくなるというメリットがある一方、ルールの抜け道を見つけることが可能となるデメリットがある。

4. 有用な財務情報の質的特性について、空欄の語句を答えなさい。

- ① ( a ) は、情報が有用であるために備えるべき特性で、( b ) と ( c ) の2つの特性から成り立つ。
- ② ( b ) は、財務情報が有用であるためには、利用者の要求に適合する者でなければならないとするものである。財務情報が目的適合的であるには、財務情報が ( d ) と ( e ) あるいはその両方を備えておく必要がある。
- ③ ( c ) とは、財務情報が表現しようとする現象を忠実に表現しなければならないとするものである。これは、( f )、( g )、( h ) に支えられている。

a: 意思決定有用性   b: 目的適合性   c: 表現の忠実性   d: 予測価値   e: 確認価値  
f: 完全性   g: 中立性   h: 不偏性